

滑川市立博物館企画展

70 没
年 後

北方の詩人 高島高

詩
が
光
を
生
む
の
だ
光
が
詩
を
生
む
の
だ
— 高島高



会 期 令和7年(2025)4月5日(土)～5月11日(日)

会 場 滑川市立博物館 3階

開館時間 午前10時～午後6時 ※入館は午後5時30分まで

休館日 月曜日(5月5日は開館)、4月30日(水)、5月7日(水)

入場
無料

記念講演会 4月5日(土) 午前11時～

講師：伊勢功治さん(著書『北方の詩人 高島高』思潮社 2021、「第33回翁久允賞」受賞者)

演題：「高島高の詩の原点—初期エッセイより」

会場：滑川市立博物館 2階 多目的ホール

展示解説会 4月6日(日)・19日(土)、5月3日(祝)・6日(休)・11日(日)

※いずれも午前11時～、午後2時～(30分程度)

同時開催 「高島高一心に響く詩の書展」(協力：滑川市書道連盟)

参加
無料

※申込不要

主催：滑川市教育委員会・滑川市立博物館

没後
70年

北方の詩人 高島 高

滑川を代表する詩人・高島高（本名：高嶋高）は、令和7年（2025）に没後70年を迎えます。

明治43年（1910）、滑川町西町（現加島町）の医師・高嶋地作（号：半茶）の家に生まれ、旧制魚津中学（現魚津高校）在学中から詩作を始めました。日本大学の文科に進むも、父の願いを受け入れ中退し、昭和医学専門学校（現昭和大学）に入学。東京では医学を学ぶ一方で、ますます詩作にも励み詩友たちとの交友を深めています。卒業後は横浜等で勤務医になりますが、父が病に倒れたことにより帰郷し、医師の傍ら「北方荘」と名付けた自宅で創作活動を行いました。各地の詩人や文人たちと交流を重ねながら、富山県内の詩壇・文壇をリードする一人でしたが、昭和30年（1955）、病に倒れ44歳の若さで逝去。

本展では、高嶋家に残る高島高関連資料、滑川町の俳諧結社「風月会」でも活躍した父・地作に関わる資料を通じて、高嶋家と詩人・文人たちとの交友、高島高の生涯をご紹介します。



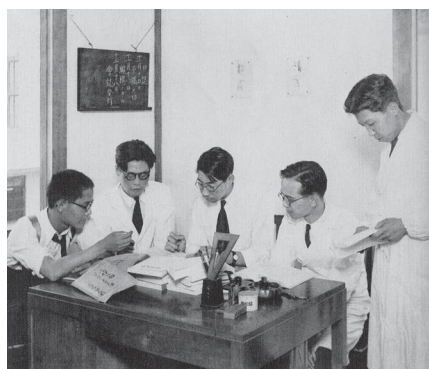
高島高と妻・とし子 1938年
富山市・総曲輪のネギシ写真館にて



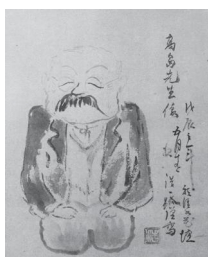
父・地作 母・静枝



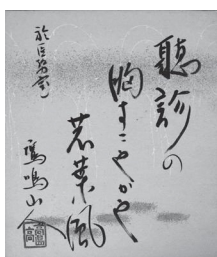
医院前の高嶋地作（左）



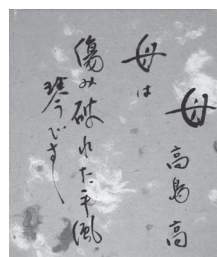
昭和医学専門学校の雑誌部で活動 左から2人目が高



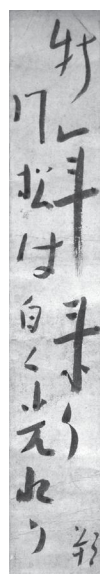
近藤浩一路画
「高島（地作）先生像」



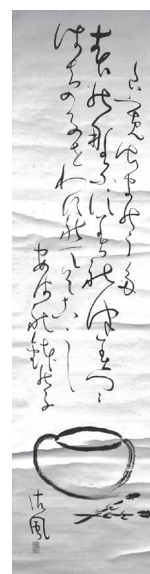
高島高色紙
「聴診の胸すこやかや若葉風」



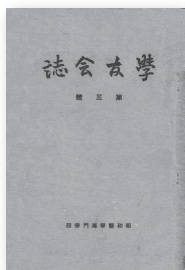
高島高色紙
母「母は痛み破れた手風琴です」



萩原明太郎
掛軸
「新年来り
門松は
白く光れり」



相馬御風 掛軸
「良寛さまのうた」



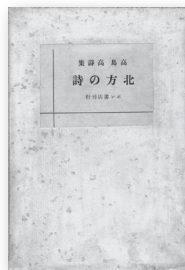
『学会誌』3号 1930年12月
昭和医学専門学校



『麵麴』1936年2月



『風流陣』32号
1938年10月



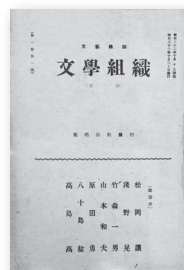
第1詩集『北方の詩』
1938年7月



第2詩集『山脈地帯』
1941年1月



『聴瀟庵半茶遺稿集』
高島高編集 1942年11月



『文学組織』第1集
高島高編集 1947年10月

問い合わせ先



博物館 HP

滑川市立博物館

〒936-0835 富山県滑川市開676
TEL: 076-474-9200 FAX: 076-474-9201
Mail: hakubutsukan@city.namerikawa.lg.jp



ミュージアムカフェ
10:00～15:00



Facebook



X (旧 Twitter)

■コミュニティバス時刻表（大日・室山ルート）

滑川駅前	12:00	14:40	17:32
博物館前	12:19	14:59	17:51
開	12:40	15:20	18:12
滑川駅前	13:03	15:43	18:35

■公共交通機関

あいの風とやま鉄道（滑川駅）、富山地方鉄道（滑川駅・中滑川駅）からコミュニティバス（のるmy car:大日・室山ルート）で、「博物館前」下車すぐ、「開」下車徒歩3分。

■自動車

北陸自動車道・滑川インターチェンジから約3分。国道8号線・稲泉交差点から約7分。

